

# 平成30年7月豪雨



## 市民の皆さまへ

台風7号および梅雨前線などの影響による「平成30年7月豪雨」は、市内各地に甚大な被害をもたらしました。被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

災害発生から今日まで、市内外から数多くの支援物資や義援金などが寄せられるとともに、多くのボランティアの皆さんに携わっていただきました。心から感謝申し上げます。

被災以降、市は上水道や下水道、道路などライフラインの確保や避難所の運営などに全力で取り組んでまいりましたが、避難生活を余儀なくされている方をはじめ、家屋などを被災された皆さまが災害前の生活環境を取り戻すまでには至っていません。

一日も早く皆さまの生活再建ができるように、国や県、関係機関と協力し、復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいります。引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

高梁市長 近藤隆則



7月7日の高梁川(段町)



川の氾濫による浸水(玉川町玉)・市民提供

## 降り続いた雨が

### 市内全域を襲う

7月5日から7日にかけて降り続いた雨は、河川の氾濫を招き、土砂災害や家屋の浸水など市内に甚大な被害をもたらしました。

6日の午後3時25分に土砂災害警戒情報が発表され、午後5時40分には中井町の一部、午後7時には松山(広瀬・河内谷地区)と玉川町玉に避難指示を発令しました。

その後、午後7時39分に県内で初となる大雨特別警報(土砂災害)が発表され、市内全域に避難勧告を発令しました。

高梁川広瀬観測所の河川水位は、6日の午後6時10分時点で避難判断水位の7.3メートルを超え、午後10時に12.89メートルを記録。その後観測不能となりました。

## 道路が寸断 救助活動にも影響

国道180号と国道313号、岡山自動車道などの主要道路や市道・農道などで、崩土や法面の崩落、冠水などにより道路網が寸断

されました。

そのため、車両で市内各地へ行くことができなくなり、広瀬地区で家に残り残された人や落合町阿部にあるコンビニエンスストアの屋上などに避難していた人の救助活動が、ボートを使い夜を徹して行われたなど非常に困難なものとなりました。また、落合町福地にある特別養護老人ホームでは約100人が2階へ避難し、浸水が収まるのを待ちました。

避難所への物資の輸送、供給も困難な状況となってしまいました。

## 大きな役割を担った消防団

### 自衛隊・警察・消防などによる救助

市消防団は、河川警戒、避難誘導、行方不明者の捜索など市内各地で先頭に立って活動を行いました。

落合町近似では7日未明に土砂崩れが発生し、家屋が倒壊して住民が一時行方不明に。消防団は地域住民と消防署、高梁警察署とともに家屋から家具や土砂を運び出し、捜索活動を行いました。その後、住民は無事に救出されました。

## 主な救助活動(自衛隊・警察・消防など)

- ① J R 備中広瀬駅近くで民家に取り残された住民を救助(松山)
- ② 土砂崩れによる安否不明者を捜索し救助(高倉町田井・落合町近似)
- ③ コンビニエンスストア屋上避難者と落合橋西から市場付近の住民を救助(落合町近似・阿部)
- ④ 浸水により民家に取り残された住民を救助(備中町東油野)

## 鉄道の運休

### 臨時バスやタクシーの運行

J R 伯備線の一部区間運休は、通勤・通学に影響を及ぼしました。

この路線を利用して通学する高校生が多いため、市は高校生・専門学校生を対象に総社駅、備中高梁駅間、備中高梁駅、新見駅間を往復する臨時バスを運行しました。7月19日にはJ R 西日本の代行バスも運行を開始。復旧まで無事に通学することができました。

なお、J R 伯備線の豪渓駅、上石見駅間は、8月1日から通常運行となりました。